

視聴覚教育

86

No.

発行日
57.10.1

発行
岡崎市AVL
編集
広報委員会

社会科・理科学習の

深化をめざして

——大樹寺小の研究発表会終わる——

去る九月二十八日、大樹寺小学校において、「社会科・理科学習の深化をめざして」のテーマのもとに、視聴覚教材の効果的な活用について研究発表会が行われた。

放送とT.P教材を中心には、視聴覚教材を生かした社会科・理科の公開授業・分科会、それに国際教育交流センター所長の園一彦先生の「視聴覚機器の将来展望」を題する講演があった。参考にどののこうして得るところの多い会であった。

テーマでは、分科会で提案されたことの一端を紹介してみたい。

社会科部会

部会研究テーマ

究明段階を充実させるために、視聴覚教材をどう活用するか。

社会科は、正しい認識を得させること、いかえれば、社会に對する正しい判断力自身に力をつけることを主眼としたいとする。

そのための、視聴覚教材を使用することにより、情感を高め、問題意識を焦点化することによって役立つ。また、視聴覚教材を学習の過程に位置づけることによつて、社会的な見方・考え方を深めることができるとはいないか。という仮説のもとに実践がなされた。具体的事例として、六年「家康単元の鉄砲の伝来」、一年「パン工場で働く人」、三年「学校の近くのようす」を通つて提案された。

理科部会

部会研究テーマ

実験・観察を意欲的にこなすために、視聴覚教材はどの位置づけられるか。

理科は、自然の事物・現象を見つめ、その中に疑問を見つめ、解決する力自身に力をつけることをやりたいとする。そのために、視聴覚教材による共通体験や追索視点の明確化は、解決の方法として有効にはたらく。また、視聴覚教材を学習の過程に位置づけることによつて関係的・連続的「見方・考え方を深める」ことができるとはいないか。この仮説のもとに、六年「ほのお」、五年「植物のつくり」と「はらぺこ」を例に実践発表がなされた。

VTR『火事をふせぐ』を視聴して

岩津小 澤 裕子

子どもたちは、テレビを見たりすることが大好きである。しかし、四年の社会科は区域学習が主なので、テレビを使う授業がなかなかできない。そこで、社会のテレビを授業に何とか利用できないのかと考え、「火事をふせぐ」という番組をVTRにとってみた。それは、山形県酒田市の防災の様子をあらわしたもので、それと酒田市と比較させて学習させることにした。VTRを視聴する際には、メモをとらなければならない。視聴後の子どもたちの反応は活発で、酒田市の防災のしくみによく気がついてきた。その後、「酒田市とくらべて酒田市では、どのように火事を防いでいるか」と質問した所、酒田市の防災のしくみが岡崎市でも当てはまるのではないかと、いつ意見が出た。

今までの私は、テレビを何気なく子どもたちに見せていたが、

今回の授業実践は視聴覚機器の効用を使い方について深く考えさせてくれた。視聴覚機器を受身的に使用するのではなく、授業を活性化させる一つの良い手段として取り入れていきたいと思います。



ライブラリーだより

↓ 小学校修学旅行用16ミリフィルム

巡回予定 ↑

修学旅行用の16ミリフィルムを10月5日(火)から、11月末まで、順次各校へ巡回します。巡回するフィルムは、
 C21 古都・奈良と京都 30分(白黒)
 B30 奈良・京都をたずねて 20分(カラー)
 C70 歴史の都・京都 30分(カラー)
 の三作品です。詳しくは、各校へ通知いたします。

【新規購入教材の紹介】

脚	カメラ	VTR	VTR
三	DXC1800	携帯用	卓上
		SLO350	SLO333
E7	TV	16mm	フィルム
4T4		先鋒	

10月の16ミリ教材

動物の反応心(8分) 20分 中一理科
 動物のさまざまな刺激に対する反応について、実験を通して理解を深め、統一的に把握させる。

深田校長と手子ノ屋(CK3) 22分 小六 社会

江戸時代の子どもたちの学習のようすを資料や劇によって、構成し、江戸時代の教育に果にいた役割について考えさせる。